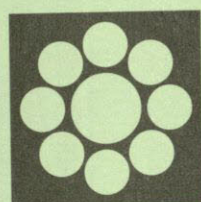


社会言語科学会 第34回大会発表論文集



2014年9月13日(土)・14日(日)

立命館アジア太平洋大学

2 0 1 4

社会言語科学会

THE JAPANESE ASSOCIATION OF SOCIOLINGUISTIC SCIENCES

インタラクションから見る日英語の構文選択

— 認知言語学と社会言語学の交流を目指して —

企画責任者：野中大輔(東京大学大学院人文社会系研究科)

話題提供者：貝森有祐(東京大学大学院総合文化研究科)

高橋杏紗(東京大学大学院総合文化研究科)

山田彬堯(東京大学大学院総合文化研究科)

指定討論者：井上逸兵(慶應義塾大学文学部)

1. はじめに

人間の言語の大きな特徴は、客観的には同じ内容に対して様々な表現手段を提供するということである(cf. Tomasello, 2003)。たとえば、フレッドという名前の人物が窓に石を投げて壊したという事態でも、どの側面を前景化するかによって、Fred broke the window / The rock broke the window / The window got broken by Fred など、用いられる表現は変わってくる。表現のレパートリーが多ければ多いほど、状況に合わせた言語使用が可能になるが、それは当該言語の巧みな話し手になる上で重要な要素の一つである。

ここで疑問になるのは、競合する表現群のうち実際に選択されるのはどれか、ということである。認知言語学(cf. Langacker, 1987)は、話し手による事態把握と言語形式の関係を明らかにすることを中心的な課題として、従来見過ごされてきたような構文の意味の違いを明らかにしてきた。しかし、話し手が聞き手にどのように伝達するかという産出の問題は十分に扱われているとはいえない。本ワークショップは、構文の中でも、(i) 事態を構造化し節の形式を決める役割をもつ項構造構文(argument structure construction)と(ii) 事態と事態の関係を述べる、つまり複数の節を結びつける複文構文(complex construction)に焦点を当て、日英語の構文選択のメカニズムに新たな光を当てるものである。

2. インタラクションの視点

ワークショップで注目するのは「参与者」(participant)の関係である。参与者は、言語学において二つの意味で用いられる。一つは、描写される事態内の項である。もう一つは、そのような事態が語られる談話に参加する者、つまり発信者(話し手・書き手)と受信者(聞き手・読み手)である。ここでは事態内の参与者の関係と談話上の参与者の関係をまとめて「インタラクション」(interaction)と呼び、それがいかに構文の産出に関

わってくるかを明らかにする。

2.1 事態内のインタラクション

これまでの項構造構文の研究では、参与者に動作主、被動者といった意味役割をラベル付けし、参与者のインタラクションを使役や状態変化などの用語を使って説明してきた。しかし、そのような抽象的な関係だけに着目しては十分に構文の振る舞いを説明することはできない。たとえば、英語の二重目的語構文は、受領者が動作主の行為によって恩恵を受けるという意味が前面に出るときのみ容認される場合がある(Goldberg, 1995: 146)。

- (1) Mary burned John a steak. (ジョンが焦げたステーキが好物であり、メアリーがそれを知った上で意図的にステーキを焦がしたときのみ容認される)

このように、構文の十分な説明のためには事態内の参与者の関係を従来よりも一歩踏み込んで考えることが必要である。

2.2 談話上のインタラクション

構文の用法を理解するには、談話の参与者が構文を用いてどのような関係を構築しようとしているのを見る必要がある。例として条件文の用法を見てみよう。会話に見られる条件文の多くは、単なる真偽の記述よりも警告や禁止の表現として用いられる(赤塚, 1998: 3)。

- (2) それにさわったら、やけどをするよ。(それを触らないようにという大人から子供への注意)

従来、このような発話行為としての側面は、言語表現そのものに内在するというよりは語用論的な推論から得られるものだと考えられてきたが、慣習的に喚起される文脈や談話の流れがあるのなら、それは母語話者の言語知識の一部であり、構文の記述に不可欠な一面を構成する(Kay, 1995)。

また、レジスターは発信者と受信者の関係を規定する慣習であると言えるが、レジスターによって語彙だけでなく構文にも選好があることが知られている。たとえば、英語の広告には中間構文(e.g. This car drives well)の使用が多いが(Fellbaum, 1986: 5)、このようなレジスターの選択も構文の使用を動機づける一因として考慮する必要がある。

2.3 絡み合う二つの次元のインタラクション

第三者について語る場合二つの参加者ははっきり分けることができるように思えるが、一人称、二人称が動詞の項として用いられる場合、両者は複雑に絡み合う。そして、事態に談話上の参加者自身が関与するかどうかは、I was hit by John と??John was hit by me の対比(久野, 1978: 146)に見るように構文の選択を大きく左右するのである。

3. 認知言語学と社会言語学の交流 (インタラクション) を目指して

上記で見たインタラクションの観点から構文を扱うには、内省に基づく作例では十分なデータが得られず、実際の言語使用を見ることが不可欠である。本ワークショップでは、事態内のインタラクションをどのように捉えるかという話し手の心的側面を重視してきた認知言語学的な構文研究を出発点に、言語使用のデータから談話の参加者間のインタラクションを扱ってきた社会言語学や談話研究の知見を取り入れて、構文選択の問題に取り組む。社会言語学と認知言語学の連携は、social cognitive linguistics (Croft, 2009)や cognitive sociolinguistics (Hollmann, 2013)においても強く主張されていることであり、本ワークショップはその実践であると言える。

事例として取り上げるのは、英語の身体部位所有者上昇構文(e.g. John hit Bill on the head/John hit Bill's head)および結果構文(e.g. John broke the egg into the bowl/John broke the egg and put it into the bowl)、日本語の使役文(e.g. 「太郎は次郎 {を/に} 走らせた」)および依頼を表す条件文(e.g. 「よかったら/よければその頃のお子さんの体重を教えてください」)に関わる構文の選択である。

4人の発表に続いて、社会言語学を専門とする井上逸兵衛教授と各発表の意義や問題点について議論する。その後、参加者との質疑応答を通じて社会言語学と認知言語学の連携の可能性や、これからの構文研究の方法論などについて考えていきたい。

参考文献

赤塚紀子 (1998). 条件文と Desirability の仮説. 中右実(編) *モダリティと発話行為* 研究社 pp. 1-97.

Croft, W. (2009). Toward a social cognitive linguistics. In V. Evans & S. Pourcel (eds.) *New directions in cognitive linguistics*. Amsterdam: John Benjamins. pp. 395-420.

Fellbaum, C. (1986). *On the middle construction in English*. Bloomington: Indiana University Linguistics Club.

Goldberg, A. E. (1995). *Constructions*. Chicago: University of Chicago Press.

Hollmann, W. B. 2013. Constructions in cognitive sociolinguistics. In T. Hoffmann & G. Trousdale (eds.) *The Oxford handbook of construction grammar*. Oxford: Oxford University Press. pp. 491-509.

Kay, P. (1995). Construction grammar. In J. Verschueren, J. Östmann & J. Blommaert (eds.) *Handbook of pragmatics*. Amsterdam: John Benjamins. pp. 171-177.

久野暉 (1978). 談話の文法 大修館書店.

Langacker, R. W. (1987). *Foundations of Cognitive Grammar*, vol.1. Stanford: Stanford University Press.

Tomasello, M. (2003). *Constructing a language*. Cambridge, MA: Harvard University Press.

英語の身体部位所有者上昇構文が選択されるとき

—動詞 hit を事例として—

野中大輔(東京大学大学院人文社会系研究科)

1. はじめに

以下の表現は、それぞれ形式が異なっているが、同じ事態を描写するのに用いることができる。

- (1) a. John hit Bill. (単純他動詞構文)
- b. John hit Bill's head. (所有格構文)
- c. John hit Bill in/on the head. (上昇構文)

Hit という行為を考えた場合、直接接触があるのは多くの場合身体の一部だけである(cf. Langacker, 1999)。したがって、(1a)は接触箇所が明示しないだけで、実際には、身体部位を指定した(1b)や(1c)と同じ事態を表しているのである。

本発表は、身体部位所有者上昇構文と呼ばれる(1c)の構文に焦点を当て、この構文がどのようなときに用いられるのかを考察する。(1b)と(1c)は、構文交替の関係にあると考えられているため(Levin, 1993)、たびたび比較されてきたが、本発表は(1a)と(1c)の関係にも注目する。(以下、(1a)を単純他動詞構文、(1b)を所有格構文、(1c)を上昇構文と呼ぶことにする。)

2. 調査の範囲

上昇構文と所有格構文は、目的語の有生性の観点から比較されることが多かった。

- (2) a. John kissed Mary on the forehead.
- b. *John kissed the Bible on the cover.
(Wierzbicka 1988: 198)

しかし、イントロダクションで述べたように、事態の参与者の関係は、従来よりも詳細に検討する余地がある。

上昇構文に相当する表現は、日本語には存在しないと言われているが、受身として表現する場合、それに近い構文が成立する(間接受身 cf. Wierzbicka, 1988; 岸本・影山, 2011)。したがって、英語の上昇構文においても、受身での使用頻度が高いことが予想される。

- (3) ビルは頭を殴られた。(cf. ?ビルの頭は殴られた)

以上の点に留意し、コーパス上のデータを分析する。

3. データ

データの収集には Corpus of American Soap Opera (Davies, 2012-) を利用する。¹ 事例研究として取り上げるのは、上昇構文で最も取り上げられる動詞 hit を含むものである。

用例の抽出は、Boas(2003)を参考に、以下のような手順で行った。[in/on + the + 名詞]の左側 5 語以内に動詞 hit が現れる例を検索する。² 次に、その中から上昇構文とみなされない例を手作業で取り除く。これにより、534 例の上昇構文を得ることができた。ここで得られた例を、所有格構文や単純他動詞構文と比較していく。

4. 分析

4.1 二者間のインタラクション

大部分の上昇構文は、二者間のインタラクションを描写するのに用いられる。参与する人物が1人のみである、つまり、再帰代名詞を伴うのは、上昇構文ではわずか 5 例である。一方、所有格構文ではむしろ自分自身への働きかけのような例のほうが容易に見つかる。さらに、その場合は非意図的な行為が多い。上昇構文と所有格構文が実際に同じような事態を指すことは、従来考えられてきたよりも少ないと言える。(以下、引用する例はすべて Corpus of American Soap Opera のものである。)

- (4) You know, I was actually the target at the pie throwing contest. Why'd you hit yourself in the face with a pie?
- (5) Oh, you fell. You hit your head. You have a headache?

それに比べると、単純他動詞構文は非意図的な接触を表すこともあるが、上昇構文と類似の状況を指すのに用いられることも多いと言えそうである。ある程度固定化

¹ アメリカの soap opera の書き起こしをもとに構築されたコーパス。

² 上昇構文には、様々な前置詞が現れるが、hit の場合の典型的な前置詞は in と on である(野中 2014)。

したイディオムのような場合であっても、単純他動詞構文に対応する上昇構文が用いられているのが観察される。

- (6) Just, the reality of the situation hit me.
(7) And then she opened her mouth, and reality just hit me in the face.

4.2 受身文と能動文

上昇構文は534例のうち、152例が受身であった。しかも、そのうちの102例はget受身である。単純他動詞構文に比べると、get受身の用例の多さが目立つ(所有格構文はそもそも受身で用いられることが少ない)。Get受身は、特に会話における用法では、被動作主に焦点を当て、話し手が事態を被害や好ましくないものと判断しているのだと言われている(Carter & McCarthy, 1999)。上昇構文が描写する状況はそれによく合致するのだと考えられる。

- (8) He took me to a ball game and I got hit in the head with a foul ball.
(9) Colin: Jennifer. What happened?
Jennifer: She got hit in the head with a swing.
I mean, Aunt Maggie and I didn't actually see it.

実は、たとえ能動文であったとしても、話し手は動作主よりも被動作主に注目して事態を語る人が多いと言える。たとえば、以下の例のように、能動文とはいえ、不定や無生物の主語の場合、話し手は目的語、つまり被動作主寄りの視点を取っていることがうかがえる(cf. 久野, 1978)。(12)のように、被害を受けた結果を描写する例も見受けられる。

- (10) Lexie: Sami, what — what — what happened?
Sami: He was attacked. Someone hit him on the back of the head at the pier.
(11) He wanted to shoot me. The bullet missed, hit you in the head. So it's absolutely my fault that you got shot and that that happened.
(12) You picked up a wrench, and you hit Lisa Niles the head, and she died.

5. まとめ

動詞 hit には様々な用法があるが、所有格構文に比べて、上昇構文は動作主が被動作主に意図的に働きかける場合に使われる傾向がある。そして、話し手は上昇構文を用いることで、受身文のときはもちろん、能動文のときであれ、被動作主の被害に着目することが多い。この

ような側面は、単純他動詞構文に比べて、身体部位を特定しているという点だけでは予測することができず、この構文の重要な特徴となっていると考えられる。

本研究は動詞を hit に限った事例研究ではあり、今後ほかの動詞でも同じような傾向が見られるのか調査する必要がある。

参考文献

- Boas, H. C. (2003). *A constructional approach to resultatives*. Stanford: CSLI Publications.
Carter, R., & McCarthy, M. (1999). The English get-passive in spoken discourse. *English Language and Linguistics*, 3(1), 41-58.
Davies, M. (2012). Corpus of American soap opera. Available online at <http://corpus.byu.edu/soap/>
久野 暉 (1978). 談話の文法 大修館書店.
Langacker, R. W. (1999). *Grammar and conceptualization*. Berlin: Mouton De Gruyter.
Levin, B. (1993). *English Verb Classes and Alternations*. Chicago: University of Chicago Press.
野中大輔 (2014). 身体部位所有者上昇構文における前置詞の役割, 英語コーパス学会東支部研究発表会ハンドアウト
Wierzbicka, A. (1988). *The semantics of grammar*. Amsterdam: John Benjamins.
岸本秀樹・影山太郎 (2011). 構文交替と項の具現化 影山太郎(編) 日英対照 名詞の意味と構文 大修館書店 pp. 270-304.

レシピから見る英語結果構文の選択と制約

—状態変化と位置変化が両立する事例に注目して—

貝森有祐 (東京大学大学院総合文化研究科)

1. はじめに

本発表では (1) に示すような、単一節内に状態変化と位置変化が両立する英語結果構文 (以下、「複合変化結果構文」と呼ぶ) に関して、「レシピ」というレジスターの観点から考察する。

- (1) a. Use a large spoon to make four indents in a mixture, and carefully crack your eggs into each one.^{3, 4}
- b. Slice strawberries into a large bowl and crush them with the back of a wooden spoon.⁵

この構文がレシピにおいて頻繁に生起することに注目して、構文が選択される動機付け、構文に課される制約について検討し、構文について十全に理解するためには、意味的要因と社会的要因を併せて考える必要があることを示す。

2. 先行研究

複合変化結果構文はいくつかの観点から分析されている (cf. Levin & Rappaport Hovav, 1995) が、本発表では Goldberg (1995) が提案する (2) の制約について検討したい。

- (2) ある状態変化 (もしくは結果) を引き起こすことになるある行為が、慣習的にある移動を付随的にもたらし、かつその行為自体にそうした移動を引き起こそうという「意図」が認められる場合、複合変化結果構文は容認可能となる (Goldberg, 1995: 171-2; 河上他 (訳), 2001: 230-2 より一部改変)

- (3) a. The butcher sliced the salami onto the wax paper.
- b. *Sam unintentionally broke the eggs onto the floor.

³ http://www.youtube.com/watch?v=itCKz98ef_Y [2014/7/2]

⁴ 例文における下線は筆者が付したものである。

⁵ <http://www.gosanangelo.com/news/2014/may/28/sprinkle-strawberries-into-your-dishes-this/> [2014/6/5]

Goldberg によれば、サラミをスライスする時、サラミはスライス器から下に落ちていくのが普通である。このように、目的語参与者への行為を遂行する際に付随的に移動が生じるという慣習的シナリオを想定することが可能である場合、複合変化結果構文で表現することができる (3a)。加えて、引き続いて起こる位置変化は意図的に引き起こされるものでなければならず、非意図的なものであると解釈される場合には容認されない (3b)。

しかし、この制約には問題がある。「慣習的シナリオを想定できること」という制約について、Goldberg は慣習的シナリオとしてどのようなものが考えられるか検討しておらず、どのようにして慣習的シナリオと見なされるかについての説明が不十分である。「位置変化が意図的に引き起こされていないといけない」という制約については、松本 (2002: 196) が指摘しているように反例 (*Sam accidentally broke the eggs onto the floor*) が存在し、従って、位置変化が必ずしも意図的に引き起こされているわけではないということになる。さらに、Goldberg の制約だけでは、そもそも何故、当該の状況を言語化する上で 2 つの節ではなく、状態変化と位置変化を同時にコード化する複合変化結果構文が選択されるのかということについては明らかでない。加えて、(2) に示したような制約が課される理由についても説明されていない。

3. 構文の意味解釈

複合変化結果構文がどのような意味解釈を受けるのか、ここでは特に状態変化と位置変化の関わり合いの観点から考えてみたい。

- (4) The cook cracked the eggs into the glass. (Levin & Rappaport Hovav, 1995: 60)

(4) の文は、「卵を割り、卵の中身がそのままグラスへと移動する」という状況を描写するものとして解釈される。「卵を割り、卵の中身をいったん皿に入れてから、それをグラスへと移動する」という解釈は不可能であり、その状況を表すためには *The cook cracked the eggs and put them into the glass* というように、2 つの節を用いて表現しな

なければならない。このことから複合変化結果構文の意味解釈について、次の制約を立てることができる。

- (5) 時間的統合性の条件：「状態変化」と「位置変化」が1つの変化の一連の段階を形成し、併せて1つの事象であると解釈可能である時、複合変化結果構文は容認可能となる⁶

4. レジスターと構文の関わり合い

複合変化結果構文はレシピにおいて頻繁に観察されることから、「レシピ」というレジスターが複合変化結果構文の選択と制約について一定の動機付けを持っていると考えることができる。以下ではレシピの特徴を踏まえて、複合変化結果構文の選択と制約について検討する。

まずは「位置変化は意図的に引き起こされるものでなければならない」という制約についてである。レシピは一種のインストラクションであり、「～せよ」と命令・指示するものである。命令される人が遂行することになる行為は意図的なものでなくてはならない。従って、レシピというレジスターにおいては非意図的な行為は容認されない(ex. **Accidentally crack the eggs into the bowl*).

次に、レシピにおいて複合変化結果構文が選択される動機付けについてであるが、これにはレシピが「簡素化されたレジスター」(simplified register)である(Ferguson, 1994; Klenová, 2010)ことが関係していると考えられる。簡素化されたレジスターとは、標準言語(standard language)よりも現れる語彙項目や文法カテゴリーが顕著に限定的であるレジスターのことを言う。本発表では、複合変化結果構文がレシピにおいて選択されるのは、レシピのsimplicityを補うためであることを提案する。

最後に、複合変化結果構文の選択と制約に関わることとして、レシピが日常的・慣習的シナリオを喚起し(cf. 吉川, 2008)、複合変化結果構文はそのシナリオの一部を1つの事象としてコード化する役割を果たしていることを提案する。先に複合変化結果構文は意味的制約として(5)を満たしていなければならないことを見た。しかしレシピに見られる複合変化結果構文には、これを厳密には満たしているとは言えない用例が存在する。

- (6) a. Chop half a red onion into the bowl.⁷
b. *Cut the Rusichi_TW folder into C:\¥¥Program Files\¥SEGA¥Medieval II Total War¥Mods⁸

⁶ この条件は、Matsumoto(2013)が提案する単一展開制約(The Single Development Constraint)を、特に複合変化結果構文の意味解釈の条件として捉え直したものであると考えることができる。

⁷ <http://recklessbliss.blogspot.jp/2011/06/in-kitchen-with-corn-and-avocado-salad.html> [2014/7/9]

⁸ <http://www.twcenter.net/forums/showthread.php?465536-Tutorial-Ho>

(6a) はレシピにおける調理手順の1つであるが、この文が描写している状況は「タマネギ半分をまな板の上で切って、それをボールに入れる」である。これは厳密には「タマネギ半分を切って、切ったものがそのままボールに入る」という状況ではないので(5)の制約を満たしてはおらず、本来であれば2つの節によって表現されなければならないはずである。しかし「タマネギを切る」ということと「切ったものをボールに入れる」ということはレシピにおける日常的・慣習的シナリオであり、調理手順の1つである。従って、厳密には(5)の条件を満たしていないものの、レシピにおける1つの調理手順、1つのシナリオであると見なされ、複合変化結果構文として表現することが可能となる。一方、レジスターが専門性を要求し、多くの人にとって日常的・慣習的シナリオを想起しづらいものである場合、複合変化結果構文として表現することは困難である(6b)。

5. まとめ

以上の分析から、複合変化結果構文の選択や制約について明らかにするためには、それが用いられる「レシピ」というレジスターを考慮に入れ、意味的・社会的両側面から考察する必要があることが分かる。

参考文献

- Ferguson, C. A. (1994). Dialect, register, and genre. In D. Biber and F. Edward (eds.) *Sociolinguistic perspectives on register*. Oxford: Oxford University Press. pp. 15-29.
- Goldberg, A. E. (1995). *Constructions*. Chicago: University of Chicago Press. [河上誓作・早瀬尚子・谷口一美・堀田優子(訳) (2001). 構文文法論 研究社]
- Klenová, D. (2010). The language of cookbooks and recipes. Master's Thesis. Masaryk University.
- Levin, B., & Rappaport Hovav, M. (1995). *Unaccusativity*. Cambridge, Mass.: The MIT Press.
- 松本曜 (2002). 使役移動構文における意味的制約 西村義樹(編) 認知言語学 I 東京大学出版会 pp. 187-211.
- Matusmoto, Y. (2013). Constraints on the co-occurrence of spatial and non-spatial paths in English. Manuscript. Kobe University.
- 吉川裕介 (2008). 広告、レシピ、ヘッドラインに現れる結果構文 日本語用論学会大会研究発表論文集, 4, 151-158.
- w-to-get-Rusichi-TW-to-work [2014/7/9] より一部改変。

日本語の形態的使役と使役事象参与者の社会的関係

高橋杏紗 (東京大学大学院総合文化研究科)

1. はじめに

本発表は日本語の形態的使役を取り上げ、一つ目に、被使役者に付与される格が「を」と「に」の間で交替する現象を紹介し、繰り返し議論されてきたその交替の動機付けに関し先行研究の補足をする。二つ目に、形態的使役により表現される事象の、事象参与者の社会的関係に注目し、社会的関係が形態的使役文の使用にどのように関わっているのかを見る。

2. 形態的使役

動詞の語幹に-sasuまたは-saseruが付与されたものを形態的使役と呼ぶ。ここでは後者の-saseruのみを取り上げる。以下は形態的使役動詞と使役文の例である。

- (1) 行かせる
ik-u + saseru → ik-(s)aseru

- (2) 花子は太郎を行かせる。

(2)の花子のような主語に来る存在を使役者と呼び、太郎のような存在を被使役者と呼ぶ。今回の発表では被使役者が「を」格と「に」格のどちらでも表示されうる、動作主を主語に取る自動詞から派生した使役を取り上げる。「を」格で表されるものを「を」使役、「に」格で表されるものを「に」使役と呼ぶ。

- (3) 動作主主語を取る自動詞派生の使役
花子が太郎 を／に 行かせる (太郎が行く)

3. 「を」使役と「に」使役

ある出来事の発生に関し第3者が主観的に責任がある場合、その状況は使役文で表現される(寺村, 1982)。その際、使役者が被使役者に対し具体的に何をしてどのように関与したのかは使役表現からは分からない。しかし少なくとも出来事を発生させた第3者の働きかけの「強制度」は被使役者に付与される格によって表すことができる」と指摘されてきた(Shibatani, 1976)。

(3)で紹介した動作主を主語に取る自動詞派生の使役文において、一般的に「を」使役は「使役者が被使役者

の意向に関わりなく命令したり、許可したりする場合」に用いられ、一方で「に」格は「使役者が被使役者を自ら進んで動作する方向に仕向ける場合」に用いられる傾向があると言われている(日本語記述文法研究会, 2009: 273)。

- (4) a. 僕はやさしく言い聞かせてジョン*を／に行かせた。
b. 僕は 力づくで ジョン を／*に行かせた。
(Shibatani, 1976: 252)

- (5) a. 強盗はピストルを突きつけて、家の人を静かにさせた。
b. ?強盗はピストルを突きつけて、家の人に静かにさせた。
(高見, 2011: 138)

一方で、早津(1995;1999)、許(2005)は実際の使用例を集め分析した結果、「に」使役の数が「を」使役に比べ極端に少ないという特徴があり、また格の違いが使役の強制度の違いを反映しているとは思えないと報告している。今回、早津(1995)、許(2005)では使用されなかったコーパス BCCWJ を用い、格交替を起こす使役動詞を調べたところ、早津(1995)、許(2005)と一致する結果となり、「に」使役が極端に少なく、また「に」使役と「を」使役で強制度の違いがはっきりとは現れないという結果となった。

表1 「を」と「に」の分布⁹

	を使役	に使役	総数
行かせる(757)	197 (95.1%)	10 (4.8%)	207
歩かせる(133)	34 (91.8%)	3 (8.1%)	37
働かせる(534)	404 (99.2%)	3 (0.7%)	407
遊ばせる(396)	109 (96.4%)	4 (3.5%)	113

4. 事象参与者の社会的関係と使役表現

「を」使役と「に」使役における従来の先行研究でいわれているよう強制度の違いは、実例を見る限りでは見られなかったが、そもそも文脈をから強制度が分からないものも多かった。使役表現において使役者がどれくら

⁹ 小数点第2位以下は切り捨てて表示。

いの強さで関与したかは興味の対象外であり、それは使役者と被使役者の関係からどのような事象だったのか想像がつくためであるといえる。そもそもある状況を表すさいに使役表現を用いるかには、事象参加者の社会的関係が関わっている。寺村(1982)、高見(2011)でふれられているように一般的に使役表現が用いられる状況は、ある人やものがその事象の発生に主観的に何らかの責任があり、事象を惹き起こすことのできる立場にあるものである。また寺村(1982)は使役者と被使役者の間の「相対的な関係」にも注意を向ける必要があると述べている。

使役文はしばしば、働きかけ(強制、説得、指示)、傍観・放任、非意図的な原因・責任などのいくつかの意味タイプに分類され、それにより事象を惹き起こすことのできる立場がどのようなものが示されてきた(高見, 2011, 寺村, 1982)。典型的に社会的に目上の存在は事象を惹き起こす立場にある。傍観・放任ではその事態が生起することに関わりのある者のみが使役主として表れることができ、また主観的に事象の実現を防ぐことができる立場にあったのにできなかった者には責任があると考えられ使役主として表れうる(西村, 1998)。

コーパスを用い集めた実際の用例を観察すると、使役者と被使役者の関係が、親と子供、組織の中の上司と部下の関係のものをもっとも多くみられた。

(6) 「今日に限って、うちからは、誰も来られなくてすみませんでした。あなたが帰って来られたときいたし、夜にでもなれば、所轄所の者を行かせようと思っていたんですが」(BCCWJ)

(7) また奴隷を使う工場みたいなものがありました。奴隷制マニュファクチャーなどと言う人もありますが、数人とか十数人くらいの奴隷を働かせて、その製品を売ってもうける。(BCCWJ)

その一方で目上と目下のような関係がなくとも、特定の社会的な場面における特定の関係が事象参加者間にある状況では使役表現が使用される場合や、特定のニュアンスを込めるために目上でない者が使役主に表れる場合もある。前者に関して、「歩かせる」の「を」使役で、次のような使役表現が34件中7件見つかった。

(8) 松坂は伸びのある時速百五十kmの直球でキューバの7番、8番打者を連続三振に取る。金メダルまでアウト4つ。だが、悪いクセがでた。力みすぎて9番打者を歩かせてしまったのだ。(BCCWJ)

(9) 天気予報も悪いし、さっさと点取って一と思っただら、昨日のサヨナラ勝ちの勢いそのままに、初回一

挙3得点！兄貴を歩かせて林と勝負してくれたねー儲けたねー (BCCWJ)

(8)、(9)は野球の試合に関する記述で投手が使役者、打者が被使役者として使役表現が使われている。

後者に関しては、(10)において孫が使役者、祖母が被使役者位置に現れている使役表現が用いられ、使役者を非難するメッセージが込められている。

(10) 「へえ」八重は顎を引いて里美を見据える。二重にくびれたしわ深い肉の中で尖った顎がつんつんとうごめく。その表情がひどく意地悪げに見えた。「こんな年寄りに働かせていて図書館で昼寝かい。親も親なら子どもだ。(BCCWJ)

5. 今後の展望

(8)、(9)のよう例を取り上げ、話者や書き手が事象の参加者の関係に関しどのような知識を持っている場合に使役文は用いられるのかを考える。また、(10)のような例において、事象を実現できる立場にいない者を使役者に立て使役表現を用いることで、非難などの特定のメッセージを表す場合があることを示し、使役者と被使役者の位置に現れることのできる者、また事象参加者の関係を分析することが、使役表現の振る舞いをあきらかにすることにつながることを提案する。

参考文献

- 早津恵美子 (1995). 使役表現における使役対象の表され方と動詞の自他 窪田富男教授退官記念論文集編集世話人(編) 日本語の研究と教育: 窪田富夫教授退官記念論文集 専門教育出版 pp. 138-176.
- 早津恵美子 (1999). いわゆる「ヲ使役」「ニ使役」についての諸論考をめぐって 東京外語大学語学研究所言語研究書論集, 4, 19-49.
- 許永新 (2005). 日本語自動詞におけるヲ使役とニ使役の実証的研究 東京大学言語学論集, 24, 197-212.
- 日本語記述文法研究会 (2009). 現代日本語文法 2 くらしお出版
- 西村義樹 (1998). 行為者と使役構文 中右実・西村義樹(編) 構文と事象構造 研究社出版 pp. 107-214.
- Shibatani, M. (1976). Causativization. M. Shibatani (ed.) *Syntax and Semantics 5: Japanese generative grammar*. 239-294. New York: Academic Press.
- 高見健一 (2011). 受け身と使役-その意味規則を探る 開拓社
- 寺村秀夫 (1982). 日本語のシンタクスと意味 I くらしお出版

「よければ」と「よかったら」の構文交替

— 二つの次元の参与者関係と相互行為 —

山田彬堯 (東京大学大学院総合文化研究科)

4. はじめに：確率的構文交替

Yamada (forthcoming) は、「よければ」と「よかったら」という類似表現を定量的に分析し、その共通点と類似点を指摘している。第一に、両者はともに合成的な意味から構文的な意味、客観的な意味から間主観的な意味、意味論の意味から語用論的機能へ発達し、共時相において多義的ネットワークを形成しており (語用論化; Fujii, 2013), 同一の語用論的機能に対する二つの変異 (Labov, 1969; Cedergren and Sankoff, 1974; Paolillo, 2002; Tagliamonte 2006) であるとみなせる関係にある。しかし、第二に、両者には頻度上の非対称性が存在し、そのままの形で文 (節) 頭の位置に出現する頻度を数えると、「よかったら」の方が「よければ」に加え、高頻度であることが示唆された (図1)。

確率的構文交替 (依頼という機能を共有) :

よければ (OC, 10_01229) MからLサイズに切り替えたのは何ヶ月の頃でしたか? よければ その頃のお子さんの体重を教えてください。

よかったら (OC, 09_13165) 最近、読んだ本でおすすめありますか? よかったら 内容も教えてください (^_^) v

5. 相互行為的意味・機能の発現の仕方

しかし、これは、「よければ」が「よかったら」比べて、相互行為的意味 (間主観的意味; Traugott, 1997; 2003; Traugott and Dasher, 2003) が希薄であるということの意味するわけではない。Yamada (ibid.) は、さらに、「よければ」は、「が/で/さえ」といった要素と共に用いられることで、より特定の相互行為に特化した機能を発達させていることを指摘している。

変異関係にあるこの二表現のうち、この特異なネットワークを持つ「よければ」の詳細な事例を、以下、掘り下げて論じていく。

6. 「よければ」: 項/相互行為レベルの参与者

3.1 非相互行為的用法

「よければ」の独自性

が+よければ (PB, 12_00088, 358 件中 88 例) サングの種類も五十以上。ウミガメやサメ、運が良ければ マンタに会えることもある。

が+よければ (PB, 12_00088, 358 件中 40 例) 意外と近くにテニアン島が横たわり、天気が良ければ グアム島まで見渡せる。

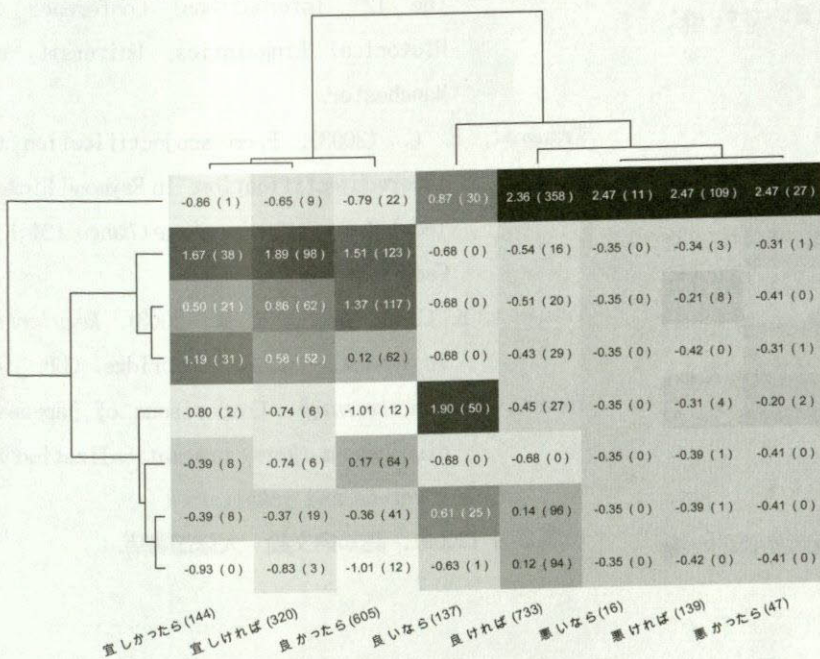


図1 語源的に類似した8表現のクラスター分析 Yamada (forthcoming) より。語源的に類似した8表現を、各表現の一つ前の分節の頻度 (上位8位) を基に分類したクラスター分析。() に与えられた粗頻度を各列ごとの Z-score し、その値によって色の濃淡をつけたヒートマップも併せて提示されている。「よかったら」が左、「よければ」が右のクラスターに分類され、その分布が大きくわかることがうかがえる。

が+よければ (OC, 09_08664, 358 件中 1 例)
腰でとまらない大きいものでも、シルエット
がよければベルトして履いたりしますよ。

3.2 相互行為的用法

- さえ
自分+さえ+よければ (OC, 10_00957, 94 件中 32 例) 自分さえ良ければいいのか! 近所迷惑を考えたことは無いのか!
あなた+さえ+よければ (LBd, 9_00131, 94 件中 7 例) 「明日の午前中ではどうです」 「あなたさえよければ、場所は?」
- で
「たいしたことのないもの」+で+よければ
私でよければ話聞きますので、メールくださってもいいですよ。 (OC, 10_01296, 「私」6 例「わたし」2 例「俺」4 例)
いつも有難うww こんなのでよければ貰ってやってくださいーこれからもよろしくな (OY, 14_32501)
私も色々とためしましたので、私的な意見で良ければ・・・まずダダリオはあたりさわりなく、割とブライتنا印象で価格も安く、私は結局コレに落ち着きました。 (OC, 01_02519)
「現状」+で+よければ
この設定でよければ、[完了] ボタンをクリックします。 (PB, 10_00098)
今のままで良ければ、DELLは買いです。 (OC, 02_01962)

7. まとめ

1° 構文交替 (変異) 両者は、同一スロットにおける確率的な構文交替とみなすことができる。しかし、そのスロットにおける生起割合は決して五分五分というわけではない。それ単体で談話標識化を遂げていることが反映される環境(., もし)に注目すると、「よかつたら」が「よければ」をはるかにしのいで使われていることがわかった(図1)。

しかし、だからといって、「よければ」に相互行為的な機能が希薄であるということはない。

2° 事態レベルの参加者の多様性と相互行為性
それ単体で談話機能を発現させることの多い「よかつたら」とは異なり、「よければ」は、その項にくる名詞や助詞を変えることで(事態レベルの参加者関係)、単語の意味から予測される以上のニュアンスを含む構文的な意味を数多く創発させており(山梨, 2009)、この構文的な意味は、客観的な意味からより相互行為指向の機能(談話レベルの参加者関係)に至るまで多岐に渡っている。

参考文献

- Cedergren, H., & Sankoff, D. (1974). Variable rules: performance as a statistical reflection of competence. *Language* 50, 333-355.
- 藤井聖子 (2013). 「条件構文と談話標識化の諸相」第四回日本語コーパス学会ワークショップ予稿集, 27-34.
- Labov, W. (1969). Contraction, deletion, and inherent variability of the English copula. *Language* 45, 715-762.
- Paolillo, J. C. (2002). *Analyzing linguistic variation: statistical models and methods*. Stanford, CA: CSLI.
- Tagliamonte, S. A. (2006). *Analyzing sociolinguistic variation*. Cambridge: CUP.
- Traugott, E. C. (1995). The role of the development of discourse markers in a theory of grammaticalization. Paper presented at the 12th International Conference on Historical Linguistics, University of Manchester.
- Traugott, E. C. (2003). From subjectification to intersubjectification. In Raymond Hickey (ed.) *Motives for Language Change*, 124-139. Cambridge: CUP.
- Traugott, E. C., & Dasher, R. B. (2003). *Regularity in semantic change*. Cambridge: CUP.
- Yamada, A. (forthcoming). Comparisons of Japanese discourse markers: pragmaticalization of *yokereba* and *yokattara*.
- 山梨正明 (2009). 認知構文論 大修館書店。